

7. 精神疾患病態研究部

I. 研究部の概要

精神疾患病態研究部では、精神疾患の克服とその障害の支援のための先駆的研究活動を展開している。精神疾患の生物学的な研究と精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動をより発展させて全国レベルで展開することを目標としている。精神疾患の生物学的な研究は、認知社会機能、脳神経画像、神経生理機能などの中間表現型及びゲノムなどの生体試料を用いて、統合失調症、気分障害、発達障害などの幅広い精神疾患について疾患横断的に検討することにより、病態を解明し、新たな診断法・治療法の開発を行っている。この研究は、当研究部においてのみ行うものではなく、国立精神・神経医療研究センターの他の研究部門および日本全国42の精神疾患関連研究機関の共同研究体制であるCOCORO（Cognitive Genetics Collaborative Research Organization：認知ゲノム共同研究機構）を運営しオールジャパン体制で遂行している。精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動は、EGUIDEプロジェクト（Effectiveness of GUIDeline for Dissemination and Education in psychiatric treatment：精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究）という全国44大学を含む240医療機関の共同研究組織を牽引し、全国でガイドラインの講習を行い、その効果検証を行っている。

令和3年度の人員構成は次のとおりである。部長：橋本亮太，室長：三浦健一郎，松本純弥，リサーチフェロー：長谷川尚美，科研費心理療法士：田村友里江，新谷茉莉果，科研費研究補助員：木村哲也，北川航，小池春菜，山縣眞美子，研究助手：山口綾子，大重満津子，併任研究員：久保田智香，佐藤英樹，宮川希，柏木宏子，竹田康二，高野晴成，石川夏絵，林大祐，一戸紀孝，渡邊恵，外来研究員12名，客員研究員56名，研究生13名。

II. 研究活動

A. 精神疾患の病態解明と診断法・治療法の開発研究

1) 精神疾患の脳神経画像研究（松本，三浦，橋本，高野，伊藤，宮山，宮川）

精神疾患の脳神経画像研究は、COCOROの主なメンバーである大阪大学（藤本，山森，安田客員研究員），生理学研究所（福永客員研究員），筑波大学（根本客員研究員），東京大学（岡田客員研究員），北海道大学（橋本直樹客員研究員），山口大学（中川客員研究員），京都大学（宮田客員研究員），富山大学（高橋客員研究員），名古屋大学（尾崎客員研究員），岐阜大学（大井客員研究員），九州大学（鬼塚客員研究員），昭和大学（中村客員研究員），徳島大学（沼田客員研究員），産業医科大学（吉村客員研究員），奈良医科大学（牧之段客員研究員），慈恵医科大学（小高客員研究員），広島大学，日本医科大学などでの多施設共同研究にて行っている。統合失調症を中心に三次元脳構造画像解析，拡散テンソル画像解析，安静時機能的MRI解析などを行い，今年度は5編の論文成果があった。そして，COCOROの多施設共同研究にて統合失調症，双極性障害，うつ病，自閉スペクトラム症，健常者合わせて5425例の脳構造画像を用いて大脳皮質厚及び大脳皮質面積のメガアナリシスを行い，統合失調症，双極性障害，うつ病の順に大脳皮質厚の菲薄化が認められ，統合失調症とうつ病に大脳皮質面積の減少が認められることを示した。また，68の大脳皮質領域における皮質厚菲薄化及び皮質面積減少のパターンを解析し，統合失調症，うつ病，双極性障害の皮質厚菲薄化パターンの共通性と，統合失調症，うつ病，自閉スペクトラム症の皮質面積減少パターンの共通性を見出した。これらの研究により，JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2021，日本統合失調症学会2021年度国際学会若手発表奨励賞，第16回日本統合失調症学会一般演題賞（優秀賞）を松本室長が受賞した。児童・予防精神医学研究部とは，統合失調症のニューロメラニン解析の共同研究を松元まどか室長を中心に行っている。国際的な脳神経画像の巨大コンソーシアムであるENIGMA

との共同研究も引き続き行っている。

2) 精神疾患の眼球運動研究 (三浦, 松本, 橋本)

精神疾患の眼球運動研究は、大阪大学 (藤本, 山森, 安田客員研究員), 名古屋大学 (尾崎客員研究員), 九州大学 (鬼塚客員研究員), 東京大学, 奈良医科大学 (牧之段客員研究員), 北海道大学 (橋本直樹, 吉田, 岡田客員研究員), 岐阜大学 (大井客員研究員), 徳島大学 (沼田客員研究員), 京都大学 (宮田客員研究員), 生理学研究所 (福永客員研究員) などとの多施設共同研究にて行っている。統合失調症を中心にフリービューイング課題, 滑動性追跡眼球運動課題, 注視課題などから得られた眼球運動の特徴, および眼球運動異常を示す眼球運動スコアの解析や, 眼球運動の基礎研究などを行い, 今年度は 6 編の論文成果があった。また, 本年度, 日本医療研究開発機構 (AMED) 医工連携・人工知能実装研究事業 (研究課題: AI 技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発) が採択され, 眼球運動と認知機能を用いた統合失調症の診断マーカーの社会実装化を企業と, アカデミアの 9 医療機関の共同研究にて開始した。医療現場で実施可能なタブレット機器にて簡便に測定できる医療機器プログラム開発を行っており, タブレット実装の一号機が完成した。今後, 実際に健常者や統合失調症患者で測定を行い, より精度を改善した二号機作成し, 臨床試験に進めていく予定である。健常者の年齢と性別における眼球運動特性を検討した研究や (三浦, 橋本, *Takanashi et al, Neuropsychopharmacol Rep, 2021*), 高齢者のうつ病と健常者における眼球運動特性の違いなどの成果が得られた (三浦, 橋本, *Takahashi et al, Front Psy, section Neuroimaging and Stimulation, 2021*)。

3) 認知社会機能プロジェクト (橋本, 松本, 三浦, 伊藤)

広く診療で使えるような統合失調症の認知機能障害の簡便な測定法を開発し, 2000 例程度のデータを COCORO にて集積して解析し, 普及のため各地で講習会などを行っている。認知機能障害は, 簡略版 WAIS で測定する推定知能と *Japanese Adult Reading Test (JART)* で測定する推定病前知能の差にて算出したものである。2021 年 4 月の第 15 回日本統合失調症学会と 2022 年 3 月の第 16 回日本統合失調症学会で, 統合失調症の認知社会機能障害の簡易な測定法のワークショップを行った。統合失調症の認知特性としての病識の欠如に関する研究など 3 編の論文成果があった。299 名の日本人統合失調症患者を対象として病識の評価スケールである SAI と服薬アドヒアランスや精神症状の関連を調べた。その結果, SAI で評価した病識と服薬アドヒアランスや精神病症状との相関が認められた (橋本, 松本, 三浦, *Ito et al, Psychiatry Clin Neurosci, 2021*)。本論文は, 伊藤研究生 (お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科人間発達学専攻) の修士論文となった。

4) 精神疾患のゲノム・生体試料研究 (橋本, 松本, 三浦)

精神疾患のゲノム・生体試料研究は, 国内においては大阪大学 (藤本, 山森, 安田, 菊地, 橋本均客員研究員), 東京農業大学 (中澤客員研究員), 徳島大学 (沼田客員研究員), 岐阜大学 (大井客員研究員), 奈良医科大学 (牧之段客員研究員), 東京都医学研究所 (新井客員研究員), 福島県立医科大学などとの共同研究, そして国外においては双極性障害におけるリチウムの治療反応性の遺伝学研究のコンソーシアムである *ConLiGen* や *ENIGMA* との共同研究を中心に行っている。今年度はリチウムの治療反応性の遺伝学研究の 3 編を含むゲノム研究が 5 編や精神疾患死後脳研究で 2 編など計 11 編の研究成果が得られた。統合失調症多発家系の iPS 細胞を用いた分子病態解析により, グルタミン酸系とドーパミン系が関与していることを見出した (橋本, *Yamamoto et al, Transl Psychiatry, 2021*)。治療抵抗性統合失調症のクロザピン反応の不一致例のゲノムワイドメチル化解析により, メチル化の変化が神経細胞のシナプス機能異常にかかわる可能性が示唆された (橋本, *Kikuchi et al, Front Psy, section Schizophrenia,*

2021).

5) 精神疾患の分子メカニズム研究 (橋本, 松本)

東京農業大学 (中澤客員研究員) と大阪大学 (橋本均客員研究員) との共同研究にて, ヒト 3q29 領域に対応する領域に欠失を導入した 3q29 欠失モデルマウスの社会的行動異常がオキシトシンの投与により回復することを見いだした (橋本, Takemoto et al, Mol Brain, 2022). また, 3q29 欠失モデルマウスでは, 室傍核のオキシトシン陽性細胞数が野生型マウスに比べて少ないこと, 及び大脳皮質のオキシトシン含有量が少ないことも明らかにした. 神経研究所 微細構造研究部 (一戸部長: 併任) と自閉スペクトラム症に関する共同研究を開始した. また, 本年度, 大阪大学と東京農業大学との共同研究が, 日本医療研究開発機構 (AMED) 脳とこころの研究推進プログラム精神・神経疾患メカニズム解明プロジェクト (研究課題: iPS 細胞技術とデータ科学を融合した精神疾患横断的な双方向トランスレーショナル研究) に採択された.

6) 司法精神医学領域の生物学的研究 (柏木, 竹田, 三浦, 松本, 橋本)

暴力の既往のある統合失調症群, 暴力の既往のない統合失調症群, 健常者データ 1600 例以上を COCORO データベースから抽出し, 認知機能, 精神病理, 社会機能, QOL 等について解析し, 暴力歴のある統合失調症患者では暴力歴のない統合失調症患者と比較して, 視覚的記憶機能の低いこと, 性格傾向における自己超越性が高いこと, 労働時間が短, QOL が低いことなどが明らかになった (橋本, 松本, 三浦, Kashiwagi et al, J Psychiatr Res, 2022). 犯罪被害者となったてんかん患者の判決文データベース調査を行い, 家族介護者による重大犯罪にはてんかんそのものよりも, 被害者の併存疾患や問題行動が関係していることを見出した (橋本, 松本, 三浦, Takeda et al, Epilepsy Behav, 2021).

B. 精神科医療の普及・均てん化に関する研究

1) 精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動: EGUIDE プロジェクト (長谷川, 久保田, 佐藤, 柏木, 三浦, 松本, 橋本)

EGUIDE プロジェクトは, 精神科医に対してガイドラインの教育の講習を行い, ガイドラインの効果を検証する社会実証研究である. 対象とするガイドラインは, 統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインであり, 日本神経精神薬理学会, 日本うつ病学会, 日本臨床精神神経薬理学会, 日本精神神経学会のバックアップを受けて行っている. 2016 年に開始した EGUIDE プロジェクトは, 本年度 44 大学 240 医療機関が参加する巨大なプロジェクトになり, 毎年 20 回以上の講習会を全国で行い, 延べ 3000 名以上の精神科医が講習を受講した. EGUIDE プロジェクトにおける検証活動は, 講習受講直後のガイドラインの理解度の向上, その後のガイドラインを遵守した治療行動調査における実践度の向上, 処方行動を診療の質 (Quality Indicator: QI) という形で測定し, 例えば統合失調症患者の退院時の抗精神病薬単剤治療率というような QI を設定し, 経時的に測定することにより, 講習の効果の有無についての検討を行った. たった一日の講習を受けることにより統合失調症とうつ病の両方のガイドラインに対する理解度が顕著に向上することを昨年度論文報告し, そのガイドラインの実践度も顕著に向上し, それが 2 年間持続すること, そして, 処方行動も向上することなどを本年度学会発表にて行った. これらの発表により, 長谷川が, 第 5 回日本精神薬学会総会にて日本精神薬学賞, AsCNP2021 Best Poster Award, 日本統合失調症学会 2021 年度国際学会若手発表奨励賞を受賞し, 橋本が第 117 回日本精神神経学会学術総会優秀発表賞を受賞した. また, 本年度の論文成果は 5 編であった.

EGUIDE プロジェクトでは講習資料を前年度の受講者の理解度の結果に基づいて毎年改訂している. この講習資料の改訂が, ガイドラインの理解度向上に寄与しているかどうかを検証すると, 講義資料の改訂がガイドラインの理解度向上に有効である可能性を示唆する成果が得

られた（長谷川，松本，三浦，橋本，Numata et al, *Neuropsychopharmacol Rep*, 2021）. 設問における理解度の改善が，将来，医師の処方行動の変化により寄与することが期待できる成果であった。

EGUIDE プロジェクトの講習の処方行動の向上効果を検討するためには，ベースラインにおける処方行動の実態を調査する必要がある．統合失調症患者 2177 名とうつ病性障害患者 1238 名から退院時の処方データから，統合失調症患者における抗精神病薬の多剤併用とうつ病患者における抗うつ薬の多剤併用は，他の向精神薬の併用率の高さと関連することが示された（長谷川，松本，三浦，橋本，Hashimoto N et al, *Asian J Psychiatr*, 2021）. また，精神疾患では不眠症状の頻度が高率であり睡眠薬の併用がしばしばなされていることが知られていたが，その実態は明らかではなかった．統合失調症の睡眠薬処方率が 56%であり，うつ病の睡眠薬所要率が 64%に上がることがわかり，睡眠薬処方をなされている患者では抗精神病薬，抗うつ薬，抗不安薬，気分安定薬などの薬剤の併用率が高いことが明らかになった（長谷川，松本，三浦，橋本，Furihata et al, *Sleep Med*, 2021）. また，臨床現場では屯用薬が良く用いられているが，その効果は明らかではなく，各種ガイドラインでも屯用薬処方では勧められていない．しかし，屯用薬処方の実態は明らかでないため EGUIDE プロジェクトにて検討すると，統合失調症においてもうつ病においても約 3 割の患者において屯用薬処方がなされていた（長谷川，松本，三浦，橋本，Ichihashi et al, *Asian J Psychiatr*, 2022）. このような実態を踏まえて，統合失調症では抗精神病薬の単剤治療，うつ病では抗うつ薬の単剤治療が推奨されていることから，抗精神病薬や抗うつ薬の単剤治療を推進するために QI として設定し，例えば 75% を目標として医師，多職種，患者・家族とも共有しモニタリングを行う必要があると考えられた．睡眠薬や屯用薬においても同様に目標とする QI を設定して今後進めていく予定である．

クロザピンは治療抵抗性統合失調症に唯一適応のある抗精神病薬であり，世界中のガイドラインでも治療抵抗性統合失調症＝クロザピン治療とされている．しかし，日本でのクロザピン治療率は諸外国の概ね 1/10 程度であり，普及が必要とされている．クロザピン治療の普及に関連する要因が知られていないため，病院毎の治療抵抗性統合失調症の診断の検討についての治療抵抗性統合失調症診断検討記載率とクロザピンの処方率とその相関について検討した．結果から，治療抵抗性統合失調症診断率を高めることが，クロザピン処方率を高めることに寄与する可能性が示唆された（長谷川，松本，三浦，橋本，Yasui-Furukori et al, *Neuropsychopharmacol Rep*, 2022）.

日本の精神医学領域ではこのような社会実装研究はまだ認知されていなかったが，この研究により広く認知されるようになった．

2) 精神科治療ガイドラインの作成・改訂（橋本）

統合失調症薬物治療ガイドラインを当事者・家族・支援者など関連団体すべてを網羅した 80 名以上の委員と共同で改訂をしている．精神科領域では初めての試みであり，他の診療領域においても先進的な取り組みである．2021 年度にはドラフトが完成し，パブリックコメントを受けた．2022 年度に公開予定としている．

III. 社会的活動に関する評価

(1) 市民社会に対する一般的な貢献

- 日本医療機能評価機構 EBM 普及推進事業（Minds）が行う「第 23 回 診療ガイドライン作成に関する意見交換会」において，統合失調症薬物治療ガイドラインについての講演を行った．Minds では 400 以上のガイドラインが掲載されており，その中で講演を行ったのは選ばれた 4 つのガイドラインだけであり，当事者・家族・支援者との共同作成と EGUIDE プロジェクトによる普及・教育・検証活動が先進的であると評価されて招聘された（橋本）.

(2) 専門教育面における貢献

- ・ 統合失調症やうつ病などのガイドラインの作成を行い、精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動である EGUIDE プロジェクトも全国展開している。EGUIDE プロジェクトにおいては、統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインの講習を全国の精神科医を対象に行い、その医療機関における治療に影響を与えるかどうかについての検討を行い、精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果を検証している。令和3年度は、統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインの講習を全国8か所で行い、45以上の医療機関、延べ501名の精神科医が参加した（長谷川、久保田、佐藤、柏木、橋本）。
- ・ 開発した統合失調症の認知機能障害の簡便な測定法についての講習会を統合失調症学会において行い、評価シートを配布し普及活動を行った（松本、伊藤、橋本）。
- ・ 国立大学法人 大阪大学の医学系研究科、連合小児発達学研究科においては招へい教授として、奈良県立医科大学においては非常勤講師として、精神医学研究の指導や知見の教授を行っている（橋本）。

(3) 精研の研修の主催と協力

(4) 保健医療行政政策に関連する研究・調査、委員会等への貢献

- ・ クロザピンは治療抵抗性統合失調症に効果のある唯一の抗精神病薬であるが無顆粒球症などの重篤な副作用のリスクが高く厳しい規制の下で処方が可能となっているため、諸外国と比較して極端に普及率が低い。精神疾患病態研究部より発信した研究成果に基づいて、その規制を諸外国並みにするための提言を、日本精神神経学会、日本神経精神薬理学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本統合失調症学会の関連4学会合同で厚生労働省に提言を行った結果、令和3年度第8回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部案船対策調査会（5月24日）にてクロザピンの添付文書改訂について審議された。その際に、精神科を代表して橋本が参考人として招聘され、その結果、規制を諸外国並みに緩和する添付文書改訂が認められ、6月3日に添付文書が改訂された。クロザピンは諸外国にはない日本独特の精神疾患患者の長期入院問題に対して入院期間の短縮に唯一かかわる要因であることから、厚生労働省はクロザピンの普及に力を入れており、大きな社会的な貢献であると考えられる。

(5) センター内における臨床的活動

- ・ 外来診療において、連携新患、統合失調症外来をそれぞれ週に1回の新患枠の診察及び、再診を週に半日行っている。専門として、統合失調症及び発達障害の診療を行い、病院内外からの紹介を受け、セカンドオピニオン対応も行っている（橋本）。

(6) その他

IV. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) Idemoto K, Niitsu T, Hata T, Ishima T, Yoshida S, Hattori K, Horai T, Otsuka I, Yamamori H, Toda S, Kamenoy Y, Ota K, Oda Y, Kimura A, Hashimoto T, Mori N, Kikuchi M, Minabe Y, Hashimoto R, Hishimoto A, Nakagome K, Hashimoto K, Iyo M: Serum levels of glial cell line-derived neurotrophic factor as a biomarker for mood disorders and lithium response. *Psychiatry Res* 301:113967, 2021.
- 2) Hayashi K, Miki K, Hayashi N, Hashimoto R, Yukioka M: Weather sensitivity associated with quality of life in patients with fibromyalgia. *BMC Rheumatol* 5(1):14, 2021.

- 3) Takeda K, Yamashita S, Taniguchi G, Kuramochi I, Murakami M, Kashiwagi H, Hashimoto R, Hirabayashi N, Okada T: Criminal victimization of people with epilepsy: Sixteen criminal judgments in Japan between 1990 and 2019. *Epilepsy Behav* 118:107912, 2021.
- 4) Ito S, Matsumoto J, Sakai Y, Miura K, Hasegawa N, Yamamori H, Ishimaru K, Kim Y, Hashimoto R: Positive association between insight and attitudes toward medication in Japanese patients with schizophrenia: Evaluation with the Schedule for Assessment of Insight (SAI) and the Drug Attitude Inventory - 10 Questionnaire (DAI-10). *Psychiatry Clin Neurosci* 75(5):187-188, 2021.
- 5) Takahashi J, Miura K, Morita K, Fujimoto M, Miyata S, Okazaki K, Matsumoto J, Hasegawa N, Hirano Y, Yamamori H, Yasuda Y, Makinodan M, Kasai K, Ozaki N, Onitsuka T, Hashimoto R: Effects of age and sex on eye movement characteristics. *Neuropsychopharmacol Rep* 41(2):152-158, 2021.
- 6) Numata S, Nakataki M, Hasegawa N, Takaesu Y, Takeshima M, Onitsuka T, Nakamura T, Edagawa R, Edo H, Miura K, Matsumoto J, Yasui-Furukori N, Kishimoto T, Hori H, Tsuboi T, Yasuda Y, Furihata R, Muraoka H, Ochi S, Nagasawa T, Kyou Y, Murata A, Katsumoto E, Ohi K, Hishimoto A, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R: Improvements in the degree of understanding the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorder in a nationwide dissemination and implementation study. *Neuropsychopharmacol Rep* 41(2):199-206, 2021.
- 7) Ohi K, Nishizawa D, Sugiyama S, Takai K, Kuramitsu A, Hasegawa J, Soda M, Kitaichi K, Hashimoto R, Ikeda K, Shioiri T: Polygenic Risk Scores Differentiating Schizophrenia From Bipolar Disorder Are Associated With Premorbid Intelligence in Schizophrenia Patients and Healthy Subjects. *Int J Neuropsychopharmacol* 24(7):562-569, 2021.
- 8) Nakano T, Kajiyama Y, Revankar G, Hashimoto R, Watanabe Y, Kishima H, Ikeda M, Mihara M, Mochizuki H, Hattori N: Neural networks associated with quality of life in patients with Parkinson's disease. *Parkinsonism Relat Disord* 89:6-12, 2021.
- 9) Takemura A, Matsumoto J, Hashimoto R, Kawano K, Miura K: Macaque monkeys show reversed ocular following responses to two-frame-motion stimulus presented with inter-stimulus intervals. *J Comput Neurosci* 49(3):273-282, 2021.
- 10) Takahashi J, Hirano Y, Miura K, Morita K, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Kudo N, Shishido E, Okazaki K, Shiino T, Nakao T, Kasai K, Hashimoto R, Onitsuka T: Eye Movement Abnormalities in Major Depressive Disorder. *Frontiers in Psychiatry, section Neuroimaging and Stimulation, Front Psychiatry, section Neuroimaging and Stimulation* 12: 673443, 2021.
- 11) Hashimoto N, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Ishikawa S, Numata S, Hori H, Iida H, Ichihashi K, Furihata R, Murata A, Tsuboi T, Takeshima M, Kyou Y, Komatsu H, Kubota C, Ochi S, Takaesu Y, Usami M, Nagasawa T, Hishimoto A, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yamada H, Inada K, Watanabe K, Shimoda K, Hashimoto R: Characteristics of discharge prescriptions for patients with schizophrenia or major depressive disorder: Real-world evidence from the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education (EGUIDE) psychiatric treatment project. *Asian J Psychiatr* 63:102744, 2021.
- 12) Amare AT, Schubert KO, Hou L, Clark SR, Papiol S, Cearns M, Heilbronner U, Degenhardt F, Tekola-Ayele F, Hsu YH, Shekhtman T, Adli M, Akula N, Akiyama K, Ardu R, Arias B, Aubry JM, Backlund L, Bhattacharjee AK, Bellivier F, Benabarre A, Bengesser S, Biernacka JM, Birner A, Brichant-Petitjean C, Cervantes P, Chen HC, Chillotti C,

- Cichon S, Cruceanu C, Czerski PM, Dalkner N, Dayer A, Del Zompo M, DePaulo JR, Étain B, Jamain S, Falkai P, Forstner AJ, Frisen L, Frye MA, Fullerton JM, Gard S, Garnham JS, Goes FS, Grigoriu-Serbanescu M, Grof P, Hashimoto R, (113名中48番目) Hauser J, Herms S, Hoffmann P, Hofmann A, Jiménez E, Kahn JP, Kassem L, Kuo PH, Kato T, Kelsoe JR, Kittel-Schneider S, Kliwicky S, König B, Kusumi I, Laje G, Landén M, Lavebratt C, Leboyer M, Leckband SG, Tortorella A, Manchia M, Martinsson L, McCarthy MJ, McElroy SL, Colom F, Mitjans M, Mondimore FM, Monteleone P, Nievergelt CM, Nöthen MM, Novák T, O'Donovan C, Ozaki N, Ösby U, Pfennig A, Potash JB, Reif A, Major Depressive Disorder Working Group of the Psychiatric Genomics Consortium, Reininghaus E, Rouleau GA, Rybakowski JK, Schalling M, Schofield PR, Schweizer BW, Severino G, Shilling PD, Shimoda K, Simhandl C, Slaney CM, Squassina A, Stamm T, Stopkova P, Maj M, Turecki G, Vieta E, Veeh J, Witt SH, Wright A, Zandi PP, Mitchell PB, Bauer M, Alda M, Rietschel M, McMahon FJ, Schulze TG, Baune BT: Association of polygenic score for major depression with response to lithium in patients with bipolar disorder. *Mol Psychiatry* 26(6):2457-2470, 2021.
- 13) Le Clerc S, Lombardi L, Baune BT, Amare AT, Schubert KO, Hou L, Clark SR, Papiol S, Cearns M, Heilbronner U, Degenhardt F, Tekola-Ayele F, Hsu YH, Shekhtman T, Adli M, Akula N, Akiyama K, Arda R, Arias B, Aubry JM, Backlund L, Bhattacharjee AK, Bellivier F, Benabarre A, Bengesser S, Biernacka JM, Birner A, Brichant-Petitjean C, Cervantes P, Chen HC, Chillotti C, Cichon S, Cruceanu C, Czerski PM, Dalkner N, Dayer A, Del Zompo M, DePaulo JR, Étain B, Jamain S, Falkai P, Forstner AJ, Frisen L, Frye MA, Fullerton JM, Gard S, Garnham JS, Goes FS, Grigoriu-Serbanescu M, Grof P, Hashimoto R(122名中51番目), Hauser J, Herms S, Hoffmann P, Jiménez E, Kahn JP, Kassem L, Kuo PH, Kato T, Kelsoe JR, Kittel-Schneider S, Ferenczajtjn-Rochowiak E, König B, Kusumi I, Laje G, Landén M, Lavebratt C, Leckband SG, Tortorella A, Manchia M, Martinsson L, McCarthy MJ, McElroy SL, Colom F, Millischer V, Mitjans M, Mondimore FM, Monteleone P, Nievergelt CM, Nöthen MM, Novák T, O'Donovan C, Ozaki N, Ösby U, Pfennig A, Potash JB, Reif A, Reininghaus E, Rouleau GA, Rybakowski JK, Schalling M, Schofield PR, Schweizer BW, Severino G, Shilling PD, Shimoda K, Simhandl C, Slaney CM, Pisanu C, Squassina A, Stamm T, Stopkova P, Maj M, Turecki G, Vieta E, Veeh J, Witt SH, Wright A, Zandi PP, Mitchell PB, Bauer M, Alda M, Rietschel M, McMahon FJ, Schulze TG, Spadoni JL, Boukouaci W, Richard JR, Le Corvoisier P, Barrau C, Zagury JF, Leboyer M, Tamouza R: HLA-DRB1 and HLA-DQB1 genetic diversity modulates response to lithium in bipolar affective disorders. *Sci Rep* 11(1):17823, 2021.
- 14) Japanese Society of Neuropsychopharmacology: Japanese Society of Neuropsychopharmacology: "Guideline for Pharmacological Therapy of Schizophrenia". *Neuropsychopharmacol Rep* 41(3):266-324, 2021.
- 15) Kikuchi M, Nakazawa T, Kinoshita M, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Hashimoto R, Numata S: Methylation Analysis in Monozygotic Twins With Treatment-Resistant Schizophrenia and Discordant Responses to Clozapine. *Front Psychiatry, section Schizophrenia* 12:734606, 2021.
- 16) Yamagata H, Kobayashi A, Tsunedomi R, Seki T, Kobayashi M, Hagiwara K, Che C, Uchida S, Okada G, Fuchikami M, Kamishikiryo T, Iga J, Numata S, Kinoshita M, Kato TA, Hashimoto R, Nagano H, Okamoto Y, Ueno S, Ohmori T, Nakagawa S: Optimized protocol for the extraction of RNA and DNA from frozen whole blood sample stored in a single EDTA tube. *Sci Rep* 11(1):17075, 2021.

- 17) Kajiyama Y, Hattori N, Nakano T, Revankar G.S., Otomune H, Hashimoto R, Mori E, Ikeda M, Mihara M, Mochizuki H: Decreased frontotemporal connectivity in patients with parkinson's disease experiencing face pareidolia. *npj Parkinsons Dis* 7:90, 2021.
- 18) Yamamoto K, Kuriu T, Matsumura K, Nagayasu K, Tsurusaki Y, Miyake N, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Fujiwara M, Baba M, Kitagawa K, Takemoto T, Gotoda-Nishimura N, Takada T, Seiriki K, Hayata-Takano A, Kasai A, Ago Y, Kida S, Takuma K, Ono F, Matsumoto N, Hashimoto R, Hashimoto H, Nakazawa T: Multiple alterations in glutamatergic transmission and dopamine D2 receptor splicing in induced pluripotent stem cell-derived neurons from patients with familial schizophrenia. *Transl Psychiatry* 11(1):548, 2021.
- 19) Yamauchi T, Makinodan M, Toritsuka M, Okumura K, Kayashima Y, Ishida R, Kishimoto N, Takahashi M, Komori T, Yamaguchi Y, Takada R, Yamamuro K, Kimoto S, Yasuda Y, Hashimoto R, Kishimoto T: Tumor necrosis factor- α expression aberration of M1/M2 macrophages in adult high-functioning autism spectrum disorder. *Autism Res* 14(11):2330-2341, 2021.
- 20) Schubert KO, Thalamuthu A, Amare AT, Frank J, Streit F, Adl M, Akula N, Akiyama K, Ardaur R, Arias B, Aubry JM, Backlund L, Bhattacharjee AK, Bellivier F, Benabarre A, Bengesser S, Biernacka JM, Birner A, Marie-Claire C, Cearns M, Cervantes P, Chen HC, Chillotti C, Cichon S, Clark SR, Cruceanu C, Czerski PM, Dalkner N, Dayer A, Degenhardt F, Del Zompo M, DePaulo JR, Étain B, Falkai P, Forstner AJ, Frisen L, Frye MA, Fullerton JM, Gard S, Garnham JS, Goes FS, Grigoriou-Serbanescu M, Grof P, Hashimoto R(117名中44番目), Hauser J, Heilbronner U, Herms S, Hoffmann P, Hou L, Hsu YH, Jamain S, Jiménez E, Kahn JP, Kassem L, Kuo PH, Kato T, Kelsoe J, Kittel-Schneider S, Ferenczajtjn-Rochowiak E, König B, Kusumi I, Laje G, Landén M, Lavebratt C, Leboyer M, Leckband SG, Maj M; Major Depressive Disorder Working Group of the Psychiatric Genomics Consortium, Manchia M, Martinsson L, McCarthy MJ, McElroy S, Colom F, Mitjans M, Mondimore FM, Monteleone P, Nievergelt CM, Nöthen MM, Novák T, O'Donovan C, Ozaki N, Ösby U, Papiol S, Pfennig A, Pisanu C, Potash JB, Reif A, Reininghaus E, Rouleau GA, Rybakowski JK, Schalling M, Schofield PR, Schweizer BW, Severino G, Shekhtman T, Shilling PD, Shimoda K, Simhandl C, Slaney CM, Squassina A, Stamm T, Stopkova P, Tekola-Ayele F, Tortorella A, Turecki G, Veeh J, Vieta E, Witt SH, Roberts G, Zandi PP, Alda M, Bauer M, McMahon FJ, Mitchell PB, Schulze TG, Rietschel M, Baune BT: Combining schizophrenia and depression polygenic risk scores improves the genetic prediction of lithium response in bipolar disorder patients. *Transl Psychiatry* 29;11(1):606, 2021.
- 21) Furihata R, Otsuki R, Hasegawa N, Tsuboi T, Numata S, Yasui-Furukori N, Kashiwagi H, Hori H, Ochi S, Muraoka H, Onitsuka T, Komatsu H, Takeshima M, Hishimoto A, Nagasawa T, Takaesu Y, Nakamura T, Asami T, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yasuda Y, Iida H, Ogasawara K, Hashimoto N, Ichihashi K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, *Hashimoto R: Hypnotic medication use among inpatients with schizophrenia and major depressive disorder: results of a nationwide study. *Sleep Med* 89:23-30, 2021.
- 22) Iino K, Toriumi K, Agarie R, Miyashita M, Suzuki K, Horiuchi Y, Niizato K, Oshima K, Imai A, Nagase Y, Kushima I, Koike S, Ikegame T, Jinde S, Nagata E, Washizuka S, Miyata T, Takizawa S, Hashimoto R, Kasai K, Ozaki N, Itokawa M, Arai M: AKR1A1 variant associated with schizophrenia causes exon skipping, leading to loss of enzymatic activity, *Front Genetics, section Neurogenomics* 12:762999, 2021.

- 23) Yoshikawa H, Kitamura S, Matsuoka K, Takahashi M, Ishida R, Kishimoto N, Yasuno F, Yasuda Y, Hashimoto R, Miyasaka T, Kichikawa K, Kishimoto T, Makinodan M: Adverse Childhood Experience Is Associated With Disrupted White Matter Integrity in Autism Spectrum Disorder: A Diffusion Tensor Imaging Study. *Front Psychiatry* 12:823260, 2022.
- 24) Tanaka M, Yanagisawa T, Fukuma R, Tani N, Oshino S, Mihara M, Hattori N, Kajiyama Y, Hashimoto R, Ikeda M, Mochizuki H, Kishima H: Magnetoencephalography detects phase-amplitude coupling in Parkinson's disease. *Sci Rep* 3:12(1):1835, 2022.
- 25) Kashiwagi H, Matsumoto J, Miura K, Takeda K, Yamada Y, Fujimoto M, Yasuda Y, Yamamori H, Ikeda M, Hirabayashi N, Hashimoto R: Neurocognitive features, personality traits, and social function in patients with schizophrenia with a history of violence. *J Psychiatr Res* 147:50-58, 2022.
- 26) Ichihashi K, Kyou Y, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, Shimnizu Y, Hori H, Hashimoto N, Ide K, Imamura Y, Yamada H, Ochi S, Iga J, Takaesu Y, Ohi K, Tsuboi T, Iida H, Yamagata H, Hishimoto A, Horai T, Usami M, Makinodan M, Nagasawa T, Komatsu H, Kido M, Muraoka H, Atake K, Takeshima M, Kubota C, Inagaki T, Tamai S, Kishimoto T, Furihata R, Matsumoto J, Miura K, Inada K, Watanabe K, Kasai K, Hashimoto R: The characteristics of patients receiving psychotropic pro re nata medication at discharge for the treatment of schizophrenia and major depressive disorder: A nationwide survey from the EGUIDE project. *Asian J Psychiatr* 69:103007, 2022.
- 27) Yasui-Furukori N, Muraoka H, Hasegawa N, Ochi S, Numata S, Hori H, Hishimoto A, Onitsuka T, Ohi K, Hashimoto N, Nagasawa T, Takaesu Y, Inagaki T, Tagata H, Tsuboi T, Kubota C, Furihata R, Iga J, Iida H, Miura K, Matsumoto J, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Shimoda K, Hashimoto R: Association between the examination rate of treatment-resistant schizophrenia and the clozapine prescription rate in a nationwide dissemination and implementation study. *Neuropsychopharmacol Rep* 42(1):3-9, 2022.
- 28) Takemoto T, Baba M, Yokoyama K, Kitagawa K, Nagayasu K, Ago Y, Seiriki K, Hayata-Takano A, Kasai A, Mori D, Ozaki N, Takuma K, Hashimoto R, Hashimoto H, Nakazawa T: Oxytocin ameliorates impaired social behavior in a mouse model of 3q29 deletion syndrome. *Mol Brain* 15(1):26, 2022.
- 29) Miyamoto T, Numasawa K, Hirata Y, Katoh A, Miura K, Ono S: Effects of smooth pursuit and second-order stimuli on visual motion prediction. *Physiol Rep* 9(9):e14833, 2021.
- 30) Miyamoto T, Miura K, Kizuka T, Ono S: The effect of explicit cues on smooth pursuit termination. *Vision Res* 189:27-32, 2021.
- 31) Miyamoto T, Hirata Y, Katoh A, Miura K, Ono S: The influence of stimulus and behavioral histories on predictive control of smooth pursuit eye movements. *Sci Rep* 11(1):22327, 2021.
- 32) Kunii Y, Matsumoto J, Izumi R, Nagaoka A, Hino M, Shishido R, Sainouchi M, Akatsu H, Hashizume Y, Kakita A, Yabe H: Evidence for Altered Phosphoinositide Signaling-Associated Molecules in the Postmortem Prefrontal Cortex of Patients with Schizophrenia. *Int J Mol Sci* 22(15):8280, 2021.
- 33) Hino M, Kondo T, Kunii Y, Matsumoto J, Wada A, Niwa SI, Setou M, Yabe H: Tubulin/microtubules as novel clozapine targets. *Neuropsychopharmacol Rep* 42(1):32-41, 2022.

(2) 総説

- 1) Onitsuka T, Hirano Y, Nemoto K, Hashimoto N, Kushima I, Koshiyama D, Koeda M,

- Takahashi T, Noda Y, Matsumoto J, Miura K, Nakazawa T, Hikida T, Kasai K, Ozaki N, Hashimoto R: Trends in big data analyses by multicenter collaborative translational research in psychiatry. *Psychiatry Clin Neurosci* 76(1):1-14, 2022.
- 2) Koshiyama D, Miura K, Nemoto K, Okada N, Matsumoto J, Fukunaga M, Hashimoto R: Neuroimaging studies within Cognitive Genetics Collaborative Research Organization aiming to replicate and extend works of ENIGMA. *Hum Brain Mapp* 43(1):182-193, 2022.
 - 3) Sønderby IE, Ching CRK, Thomopoulos SI, van der Meer D, Sun D, Villalon-Reina JE, Agartz I, Amunts K, Arango C, Armstrong NJ, Ayesa-Arriola R, Bakker G, Bassett AS, Boomsma DI, Bülow R, Butcher NJ, Calhoun VD, Caspers S, Chow EWC, Cichon S, Ciufolini S, Craig MC, Crespo-Facorro B, Cunningham AC, Dale AM, Dazzan P, de Zubicaray GI, Djurovic S, Doherty JL, Donohoe G, Draganski B, Durdle CA, Ehrlich S, Emanuel BS, Espeseth T, Fisher SE, Ge T, Glahn DC, Grabe HJ, Gur RE, Gutman BA, Haavik J, Håberg AK, Hansen LA, Hashimoto R(156 名中 44 番目), Hibar DP, Holmes AJ, Hottenga JJ, Hulshoff Pol HE, Jalbrzikowski M, Knowles EEM, Kushan L, Linden DEJ, Liu J, Lundervold AJ, Martin-Brevet S, Martínez K, Mather KA, Mathias SR, McDonald-McGinn DM, McRae AF, Medland SE, Moberget T, Modenato C, Monereo Sánchez J, Moreau CA, Mühleisen TW, Paus T, Pausova Z, Prieto C, Ragothaman A, Reinbold CS, Reis Marques T, Repetto GM, Reymond A, Roalf DR, Rodriguez-Herreros B, Rucker JJ, Sachdev PS, Schmitt JE, Schofield PR, Silva AI, Stefansson H, Stein DJ, Tamnes CK, Tordesillas-Gutiérrez D, Ulfarsson MO, Vajdi A, van't Ent D, van den Bree MBM, Vassos E, Vázquez-Bourgon J, Vila-Rodriguez F, Walters GB, Wen W, Westlye LT, Wittfeld K, Zackai EH, Stefánsson K, Jacquemont S, Thompson PM, Bearden CE, Andreassen OA; ENIGMA-CNV Working Group; ENIGMA 22q11.2 Deletion Syndrome Working Group. Effects of copy number variations on brain structure and risk for psychiatric illness: Large-scale studies from the ENIGMA working groups on CNVs. *Hum Brain Mapp* 43(1):300-328, 2022.
 - 4) 越山太輔, 福永雅喜, 笠井清登, 橋本亮太: 統合失調症・双極性障害に共通する大脳白質の微細構造変化. *精神科臨床 Legato* 7(2):90-93, 2021.
 - 5) 橋本亮太, 神庭重信, 岩田仲生, 尾崎紀夫, 加藤忠史: Round Table Discussion 座談会 今後の精神医学研究を語る. *精神科臨床 Legato* 7(2):72-79, 2021.
 - 6) 市橋香代, 橋本亮太: 当事者・家族・支援者と作り上げる出口戦略. *臨床精神薬理* 24(9):911-918, 2021.
 - 7) 橋本亮太: 「当事者・ご家族からこころの問題を学ぶ」と「基礎神経科学と臨床精神が融合したブレークスルー研究の育て方」. *MULTISCAL BRAIN News letter* 4:24, 2021.
 - 8) 稲垣 中, 佐藤英樹, 稲田 健, 市橋香代, 中川敦夫, 古郡規雄, 橋本亮太: わが国で実施された臨床試験と使用成績調査の結果から見た抗精神病薬による統合失調症治療の安全性. *臨床精神薬理* 24(11):1153-1169, 2021.
 - 9) 安田由華, 橋本亮太: 統合失調症における認知機能障害と脳画像. *臨床精神医学* 50(12):1319-1326, 2021.
 - 10) 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美, 橋本亮太: 眼球運動の定量的分析とその精神医学への応用. *月刊細胞* 54(2):17-20, 2022.
 - 11) 松本純弥: 入院編 術後合併症 術後せん妄 (注意力障害・意識障害), 泌尿器科当直医マニュアル:臨床泌尿器科 75(4):155-159, 2021.

(3) 著書

- 1) 木田直也, 橋本亮太: クロザピン療法. 一般社団法人内科系学会社会保険連合 編: 標準的医

療説明—インフォームド・コンセントの最前線—。医学書院，東京，pp243-244，2021.

- 2) 橋本亮太：第 IX 章 精神疾患「統合失調症」。日常診療に活かす診療ガイドライン UP-TO-DATE 2022-2023。メディカルレビュー社，大阪，pp596-600，2022.

(4) 研究報告書

- 1) 橋本亮太，三浦健一郎，松本純弥，長谷川尚美：多次元脳神経画像とゲノムによる精神疾患の脳病態に基づく新たな診断体系の構築。2020 年度科学研究費助成事業基盤研究 (B) 研究実績報告書。2022
- 2) 橋本亮太：発達障害のリスク遺伝子の同定。2021 年度科学研究費助成事業特別推進研究「発達障害に関わる神経生物学的機構の霊長類的基盤の解明 (代表：高田昌彦)」2020 年度研究実績報告書。2022.
- 3) 橋本亮太：クロザピンモニタリングシステムの国際比較調査。令和 3 年度厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)「治療抵抗性統合失調症薬の安全性の検証による望ましい普及と体制構築に向けた研究 (代表：上野雄文)」分担研究報告書。2022.
- 4) 橋本亮太，三浦健一郎，松本純弥，安田由華：精神医療分野における治療の質を評価する QI とその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証。2021 年度日本医療研究開発機構 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野) 2021 年度 委託研究開発成果報告書。2022.
- 5) 橋本亮太，三浦健一郎，松本純弥：AI 技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発に関する研究。2021 年度日本医療研究開発機構 医工連携・人工知能実装研究事業 2021 年度 委託研究開発成果報告書。2022.
- 6) 橋本亮太，三浦健一郎，松本純弥：iPS 細胞技術とデータ科学を融合した精神疾患横断的な双方向トランスレーショナル研究。2021 年度日本医療研究開発機構 脳とこころの研究推進プログラム (精神・神経疾患メカニズム解明プロジェクト) 2021 年度 委託研究開発成果報告書。2022.
- 7) 橋本亮太：気分障害と統合失調症の疾患連続性に関する脳画像等の総合的解析研究。2021 年度日本医療研究開発機構 戦略的国際脳科学研究推進プログラム「縦断的 MRI データに基づく成人期気分障害と関連疾患の神経回路の解明 (研究開発代表者：岡本泰昌)」2021 年度 委託研究開発成果報告書。2022.
- 8) 橋本亮太：脳神経画像の解析と縦断データに基づく，精神疾患の治療効果及び予後に関する層別化。2021 年度日本医療研究開発機構 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野)「精神疾患レジストリの利活用による治療効果，転帰予測，新たな層別化に関する研究 (研究開発代表者：中込和幸)」2021 年度 委託研究開発成果報告書。2022.
- 9) 橋本亮太：脳神経画像の解析と縦断データに基づく，精神疾患の治療効果及び予後に関する層別化。2021 年度日本医療研究開発機構 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野)「精神疾患レジストリの利活用による治療効果，転帰予測，新たな層別化に関する研究 (研究開発代表者：中込和幸)」2021 年度 委託研究開発成果報告書。2022.
- 10) 橋本亮太：多次元ビッグデータのデータ駆動型解析による精神疾患の脳病態メカニズムの解明，先進医薬研究振興財団 2020 年度 研究助成 精神薬療分野 一般研究助成 研究成果報告書。2021.
- 11) 三浦健一郎：眼球運動の状況予測性解析法の研究開発と疾患横断的理解。令和 3 年度日本医療研究開発機構 革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト「双方向トランスレーショナルアプローチによる精神疾患の脳予測性障害機序に関する研究開発 (研究開発代表者：小池進介)」2021 年度 委託研究開発成果報告書。2022.
- 12) 三浦健一郎，松本純弥，長谷川尚美：精神疾患の視覚認知行動異常のシステム神経科学的研究。2021 年度科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 研究実施状況報告書。2022.
- 13) 松本純弥：心因性疼痛の治療と認知機能障害の関連。2021 年度科学研究費助成事業 若手研

究実施状況報告書. 2022.

- 14) 長谷川尚美: 心精神疾患の処方行動における治療ガイドラインの普及と教育の効果検証. 2021 年度科学研究費助成事業 若手研究実施状況報告書. 2022

(5) 翻訳

(6) その他

- 1) 橋本亮太: CPMS 基準に関する要望, 日本精神神経学会, 日本神経精神薬理学会, 日本臨床指針神経薬理学会, 日本統合失調症学会の関連 4 学会合同, クロザリル適正使用委員会 委員長宛て 2021.10.20.

B. 学会・研究会における発表

(1) 学会特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, パネルディスカッション等

- 1) Hashimoto R: Treatment resistance schizophrenia. 7th Congress of AsCNP 2021 (Asian College of Neuropsychopharmacology 2021) Virtual Congress, Online, 2021.10.22-23.
- 2) 古郡規雄, 橋本亮太: うつ病診療の将来. 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜, 2021.7.9.
- 3) 飯田仁志, 伊賀淳一, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 古郡規雄, 橋本直樹, 降旗隆二, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太, 川寄弘詔: 日本のうつ病の治療実態と課題. 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜, 2021.7.9.
- 4) 橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎: 統合失調症のバイオタイプ研究. 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都, 2021.7.14-16.
- 5) 井手本啓太, 新津富央, 石間 環, 畑 達記, 吉田寿美子, 服部功太郎, 蓬萊 政, 大塚郁夫, 山森英長, 戸田重誠, 亀野陽亮, 太田貴代光, 小田靖典, 木村敦史, 橋本 佐, 森 則夫, 菊知充, 三邊義雄, 橋本亮太, 菱本明豊, 中込和幸, 伊豫雅臣, 橋本謙二: 気分障害のバイオマーカーとしての血清中血小板由来増殖因子 (PDGF-BB)に関する多施設共同研究. 日本プロテオーム学会 2021 年, オンライン, 2021.7.19-20.
- 6) 橋本亮太: 治療抵抗性統合失調症へのクロザピン治療とは. 第 10 回日本精神科医学会学術大会, 横浜, 2021.9.9.
- 7) 橋本亮太: 精神科領域における多施設共同研究の実際と研究倫理. 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021.9.19.
- 8) 橋本亮太: 統合失調症の薬物療法 up to date. 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021.9.19.
- 9) 橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎: データ駆動型解析による精神疾患のバイオタイプとは? 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021.9. 21.
- 10) 橋本亮太, 内田裕之, 水野裕也, 古郡規雄: COVID-19 による緊急事態宣言時におけるクロザピン検査間隔における緊急対応. 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021.9.21.
- 11) 橋本亮太: 科学的な根拠に基づく添付文書改訂のための研究とは. 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021.9.21
- 12) 橋本亮太: 更年期女性のうつ病の診断のポイントと治療のコツ. 第 36 回日本女性医学学会学術集会, 大阪, 2021.11.7.

(2) 一般演題

- 1) Sumiyoshi C, Ohi K, Fujino H, Yamamori H, Fujimoto M, Yasuda Y, Uno Y, Takahashi J, Morita K, Katsuki A, Yamamoto M, Okahisa Y, Sata A, Katsumoto E, Koeda M, Hirano Y,

- Nakataki M, Hashimoto N, Makinodan M, Takahashi T, Nemoto K, Kishimoto T, Suzuki M, Sumiyoshi T, Hashimoto R: Cross-diagnostic Comparisons of Intellectual Ability and Work Outcome in Patients with Mental Disorders: A Multi-center Study. 2021 Congress of the Schizophrenia International Research Society (SIRS), Online, 2021.4.17-21.
- 2) Schijven D, Fisher S.E, Franke B, Glahn D.C, Gur R.C, Hashimoto R, Jahanshad N, Medland S.E, Thompson P.M, van Erp T.G.M, Turner J.A, Francks C, ENIGMA-Schizophrenia working group: A Large-scale Consortium Study of Brain Anatomical Asymmetries in Schizophrenia. 2021 Society of Biological Psychiatry (SOPB 2021) Annual Meeting, Online, 2021.4.29-5.
 - 3) Miura K, Matsumoto J, Hasegawa N, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Hashimoto R: Combinations of cognitive function and eye movement tests are effective in distinguishing schizophrenia cases from healthy controls. 7th Congress of AsCNP 2021 (AsianCollege of Neuropsychopharmacology 2021) Virtual Congress, Online, 2021.10.22-23.
 - 4) Hasegawa N, Miura K, Matsumoto J, Yasuda Y, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R: The effect of EGUIDE project on medication for schizophrenia and major depressive disorder: from the 2016-2019 prescribing survey. 7th Congress of AsCNP 2021 (Asian College of Neuropsychopharmacology 2021) Virtual Congress, Online, 2021.10.22-23.
 - 5) Matsumoto J, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, Okada N, Hashimoto N, Morita K, Koshiyama D, Ohi K, Takahashi T, Koeda M, Yamamori H, Fujimoto oM, Yauda Y, Hasegawa N, Narita H, Yokoyama S, Mishima R, Kawashima T, Kobayashi Y, Sasabayashi D, Harada K, Yamamoto M, Hirano Y, Itahashi T, Nakataki M, Hashimoto R, Tha K, Koike S, Matsubara T, Okada G, Yoshimura R, Abe O, Onitsuka T, Watanabe Y, Matsuo K, Yamasue H, Okamoto Y, Suzuki M, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto R: Cortical structural mega-analysis across four major psychiatric disorders in 5432 individuals. 7th Congress of AsCNP 2021 (AsianCollege of Neuropsychopharmacology 2021) Virtual Congress, Online, 2021.10.22-23.
 - 6) 木戸幹雄, 長谷川尚美, 古市厚志, 高柳陽一郎, 高橋 努, 安田 由華, 山本智也, 渡邊 衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太, 鈴木道雄: EGUIDE 講習会の効果測定: 富山大学附属病院における過去3年分の処方調査. 第15回統合失調症学会, オンライン, 2021.4.9-10.
 - 7) 住吉チカ, 成田 瑞, 稲川拓磨, 山田悠至, 白間 綾, 末吉一貴, 長谷川由美, 和田 歩, 橋本亮太, 住吉太幹: 統合失調症患者の意味記憶構造に対する経頭蓋直流刺激の改善効果: テキストマイニングによる分析. 第15回統合失調症学会, オンライン, 2021.4.9-10.
 - 8) 長谷川尚美, 安田由華, 山本智也, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: EGUIDE プロジェクトによる退院時処方への効果〜クロザピン治療と医療の質 (Quality Indicator) との関係に着目して〜. 第15回統合失調症学会, オンライン, 2021.4.9-10.
 - 9) 住吉チカ, 大井一高, 藤野陽生, 山森英長, 藤本美智子, 安田由華, 宇野洋太, 高橋潤一, 森田健太郎, 香月あすか, 山本真江里, 岡久祐子, 佐田あゆ美, 勝元榮一, 肥田道彦, 平野羊嗣, 中瀧理仁, 橋本直樹, 牧之段 学, 高橋 努, 根本清貴, 岸本年史, 鈴木道雄, 住吉太幹, 橋本亮太: 疾患の横断的分類: 多施設共同研究. 第6回 CEPD 研究会・年次大会, オンライン, 2021.5.29.
 - 10) 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDE プロジェクト) ~処方行動に対する効果の報告~. D&I 科学研究会 (保健医療福祉における普及と実装科学研究会) RADISH 第6回学術集会, オンライン, 2021.7.3.
 - 11) 本山美久仁, 山田 恒, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 精神科レジデントに対する治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDE プロジェクト)

- の効果の検討ー臨床行動実践度の比較ー. 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜 (オンライン), 2021.7.8-10.
- 12) 小笠原一能, 沼田周助, 飯田仁志, 長谷川尚美, 松本純弥, 三浦健一郎, 尾崎紀夫, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太, EGUIDE プロジェクトチーム:「EGUIDE プロジェクト」受講者アンケートの解析から (第 2 報). 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜 (オンライン), 2021.7.8-10.
- 13) 山田恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDE プロジェクト) の効果の検討ーガイドライン講習前と受講後 3 年間の臨床行動実践度の変化ー, 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜 (オンライン), 2021.7.8-10.
- 14) 村岡寛之, 長谷川尚美, 古郡規雄, 福本健太郎, 柏木宏子, 小高文聰, 松本純弥, 三浦健一郎, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 西村勝治, 橋本亮太: EGUIDE データから, うつ病重症度記載によるうつ病入院患者の薬物療法の変化. 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜 (オンライン), 2021.7.8-10.
- 15) 福本健太郎, 古郡規雄, 村岡寛之, 安田由華, 市橋香代, 飯田仁志, 小高文聰, 越智紳一郎, 長谷川尚美, 松本純弥, 三浦健一郎, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 大塚耕太郎, 橋本亮太:「EGUIDE プロジェクト」うつ病治療ガイドライン適合度を用いた処方評価について. 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜 (オンライン), 2021.7.8-10.
- 16) 飯田仁志, 根本清貴, 長谷川尚美, 沼田周助, 山田 恒, 市橋香代, 稲垣貴彦, 小笠原一能, 松本純弥, 三浦健一郎, 川寄弘詔, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: うつ病治療ガイドラインに関する Web 講習の有効性の検討~EGUIDE プロジェクトから得られた知見~. 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜 (オンライン), 2021.7.8-10.
- 17) 古郡規雄, 橋本直樹, 長谷川尚美, 沼田周助, 堀 輝, 降籙隆二, 飯田仁志, 市橋香代, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: うつ病患者の退院時処方の特徴:EGUIDE データより. 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜 (オンライン), 2021.7.8-10.
- 18) 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: うつ病の薬物治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果: 2016~2019 年の処方調査から. 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜 (オンライン), 2021.7.8-10.
- 19) 降籙隆二, 大槻 怜, 長谷川尚美, 坪井貴嗣, 沼田周助, 古郡規雄, 伊賀淳一, 山田 恒, 市橋香代, 松本純弥, 三浦健一郎, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: うつ病入院患者における睡眠薬処方の実態と他の向精神薬処方との関連. 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜 (オンライン), 2021.7.8-10.
- 20) 坪井貴嗣, 五十嵐 俊, 越智紳一郎, 長谷川尚美, 古郡規雄, 飯田仁志, 村岡寛之, 高江洲義和, 岡田剛史, 柏木宏子, 小高文聰, 福本健太郎, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: ECT はうつ病入院患者の薬物療法をどのように変化させるか: EGUIDE データを用いて. 第 18 回日本うつ病学会総会/第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催], 横浜 (オンライン), 2021.7.8-10.
- 21) 橋本亮太: タブレットを用いた精神疾患の補助診断法の開発. 第 16 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2021.7.11.
- 22) 松岡 究, 牧之段 学, 北村聡一郎, 高橋誠人, 吉川裕晶, 安野史彦, 石田理緒, 岸本直子, 安田由華, 橋本亮太, 田岡俊昭, 宮坂俊輝, 吉川公彦, 岸本年史: 自閉スペクトラム症の左側後頭回の樹状突起のばらつき増大と視覚非定型性の関連. 第 43 回日本生物学的精神医学

- 会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都 (オンライン), 2021.7.14-16.
- 23) 松本純弥, 三浦健一郎, 福永雅喜, 岡田直大, 根本清貴, 藤本美智子, 肥田道彦, 宮田 淳, 大井一高, 中瀧理仁, 吉村玲児, 原田健一郎, 橋本直樹, 鬼塚俊明, 山本真江里, 山末英典, 高橋努, 笠井清登, 渡邊嘉之, 橋本亮太: COCORO (Cognitive Genetics Collaborative Research Organization: 認知ゲノム共同研究機構) による統合失調症の脳皮質厚・脳皮質面積のメタアナリシス, 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都 (オンライン), 2021.7.14-16.
- 24) 藤本美智子, 三浦健一郎, 森田健太郎, 山森英長, 安田由華, 池田 学, 橋本亮太: 統合失調症におけるバイオマーカーとしての眼球運動スコアの臨床的意義. 第 43 回日本生物学的精神医学会第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会 第 10 回若手研究者育成プログラム ショートトーク, 京都 (オンライン), 2021.7.14-16.
- 25) 橋本直樹, 古郡規雄, 長谷川尚美, 沼田周助, 飯田仁志, 市橋香代, 降旗隆二, 堀 輝, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 橋本亮太: 2177 名の統合失調症患者の退院時処方についての検討—EGUIDE2016-2018 年度調査の結果から—, 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都 (オンライン), 2021.7.14-16.
- 26) 柏木宏子, 松本純弥, 三浦健一郎, 福永雅喜, 根本清貴, 岡田直大, 竹田康二, 長谷川尚美, 藤本美智子, 安田由華, 山森英長, 池田 学, 渡邊嘉之, 平林直次, 橋本亮太: 暴力の既往のある統合失調症罹患者の, 脳体積, 脳皮質厚および表面積の特徴. 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都 (オンライン), 2021.7.14-16.
- 27) 安田由華, 稲田 健, 飯田仁志, 古郡規雄, 堀 輝, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 統合失調症薬物治療ガイドラインを用いたエビデンス・診療ギャップの検討について—精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDE プロジェクト) より—, 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都 (オンライン), 2021.7.14-16.
- 28) 本山美久仁, 山田 恒, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 精神科レジデントに対する治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDE プロジェクト) の効果の検討—統合失調症薬物治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較—, 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都 (オンライン), 2021.7.14-16.
- 29) 山田 恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDE プロジェクト) の効果の検討—ガイドライン講習前と受講後 3 年間の治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の変化—, 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都 (オンライン), 2021.7.14-16.
- 30) 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 統合失調症の薬物治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果: 2016~2019 年の処方調査から. 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都 (オンライン), 2021.7.14-16.
- 31) 堀 輝, 古郡規雄, 伊賀淳一, 越智紳一郎, 鬼塚俊明, 姜 善貴, 高江洲義和, 降旗隆二, 村田篤信, 長谷川尚美, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 統合失調症患者における各施設における抗コリン薬併用パターンの特徴, 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都 (オンライン), 2021.7.14-16.
- 32) 坪井貴嗣, 五十嵐 俊, 越智紳一郎, 長谷川尚美, 古郡規雄, 飯田仁志, 村岡寛之, 高江洲義和, 岡田剛史, 柏木宏子, 小高文聰, 福本健太郎, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: ECT は統合失調症入院患者の薬物療法をどのように変化させるか: EGUIDE データを用いて. 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都 (オンライン),

2021.7.14-16.

- 33) 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 橋本亮太: 認知機能と眼球運動を用いた統合失調症の診断マーカーに関する検討. 第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 京都 (オンライン), 2021.7.14-16.
- 34) 三浦健一郎, 山本哲也, 松田圭司, 松本純弥, 橋本亮太, 小野誠司, 定藤規弘, 福永雅喜: 追跡眼球運動中の大脳皮質活動特性: 円滑追跡眼球運動と衝動性眼球運動の比較. 第 44 回日本神経科学大会, 神戸 (オンライン), 2021.7.28-31.
- 35) 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 統合失調症とうつ病の薬物治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果: 2016~2019 年の処方調査から. 第 5 回日本精神薬学会総会・学術集会, オンライン, 2021.8.21-22.
- 36) 北川航平, 馬場優志, 竹本智哉, 永安一樹, 笠井淳司, 橋本亮太, 橋本 均, 吾郷由希夫, 中澤敬信: 7q36.3 領域微小重複を有する精神疾患患者の iPS 細胞由来分化神経幹細胞を用いた分子病態解析. 日本薬学会生体機能と創薬シンポジウム 2021, 北海道 (オンライン), 2021.8.28.
- 37) 橋本亮太, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田 健, 渡邊衡一郎: 統合失調症とうつ病の治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果. 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021.9.19-21.
- 38) 降旗隆二, 大槻 怜, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 坪井貴嗣, 沼田周助, 古郡規雄, 伊賀淳一, 山田 恒, 市橋香代, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 睡眠薬処方の実態と多剤処方の関連要因: 統合失調症とうつ病患者の処方データの分析. 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021.9.19-21.
- 39) 飯田仁志, 根本清貴, 長谷川尚美, 山田 恒, 市橋香代, 稲垣貴彦, 小笠原一能, 沼田周助, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: Web 講習の有効性の検討—EGUIDE プロジェクトから得られた知見—. 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都 (オンライン), 2021.9.19-21.
- 40) 山田恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: EGUIDE プロジェクトの効果の検討—ガイドライン講習前後の治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較—, 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都 (オンライン), 2021.9.19-21.
- 41) 林 大祐, 南 拓人, 染谷知恵, 春口洗希, 稲川拓磨, 沖田恭治, 佐竹直子, 野田隆政, 鬼頭伸輔, 橋本亮太: 精神病症状を呈した Silver-Russell 症候群の一例. 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都 (オンライン), 2021.9.19-21.
- 42) 古郡規雄, 長谷川尚美, 村岡寛之, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: EGUIDE における治療抵抗性統合失調症の診断記載率とクロザピン処方率の関連性について. 第 31 回日本臨床精神神経薬理学会学術集会, 東京 (オンライン), 2021.10.7-8.
- 43) 市橋香代, 姜 善貴, 長谷川尚美, 今村弥生, 堀 輝, 山田 恒, 松本純弥, 三浦健一郎, 古郡規雄, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 統合失調症及びうつ病と診断された患者における精神科退院時頓用処方の性別及び年代別傾向について: EGUIDE プロジェクトのデータより. 第 31 回日本臨床精神神経薬理学会学術集会, 東京 (オンライン), 2021.10.7-8.
- 44) 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: EGUIDE プロジェクトが統合失調症とうつ病の薬物治療に与える効果の検討. 第 31 回日本臨床精神神経薬理学会学術集会, 東京 (オンライン), 2021.10.7-8.
- 45) 名和佳弘, 久島 周, 加藤秀一, 木村大樹, 阪野正大, 橋本亮太, 菱本明豊, 尾崎紀夫: 3q29 欠失を有し統合失調症と診断された 4 症例の報告. 第 62 回日本児童青年精神医学会総会, オンライン, 2021.11.14-12.11.
- 46) 藤井優子, 山形弘隆, 關 友恵, 長谷川尚美, 橋本亮太, 中川 伸: EGUIDE プロジェクトによる統合失調症患者・うつ病患者に対する外来処方の変化. 第 34 回総合病院精神医学会, オ

ンライン, 2021.11.19-20.

- 47) 橋本亮太: COCORO の概要. 第 17 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2021.12.5.
- 48) 橋本亮太: タブレットを用いた精神疾患の補助診断法の開発コンセプト. 第 17 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2021.12.5.
- 49) 岡崎康輔, 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 牧之段学, 橋本亮太: 眼球運動と認知機能を組み合わせた統合失調症の補助診断法の開発. 第 16 回日本統合失調症学会, オンライン, 2022.3.20-21.
- 50) 松本純弥, 福永雅喜, 三浦健一郎, 岡田直大, 根本清貴, 藤本美智子, 肥田道彦, 宮田 淳, 大井一高, 中瀧理仁, 吉村玲児, 岡本泰昌, 原田健一郎, 橋本直樹, 鬼塚俊明, 山本真江里, 山末英典, 高橋 努, 渡邊嘉之, 笠井清登, 橋本亮太: 多施設共同研究による統合失調症と双極性障害の脳皮質構造画像解析. 第 16 回日本統合失調症学会, オンライン, 2022.3.20-21.
- 51) 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 統合失調症の治療に対するガイドライン講習の効果: 4 年間の経年的変化に着目して. 第 16 回日本統合失調症学会, オンライン, 2022.3.20-21.
- 52) Hayashi K, Matsumoto N, Matsuda K, Miura K, Yamane A, Eldridge M.A.G., Saunders R.C., Richmond B.J., Nagai Y, Miyakawa N, Minamimoto T, Okada M, Kawano K, Sugase-Miyamoto Y. Effects of different facial surface properties on neuronal activity in the temporal cortex and on discrimination learning in macaque monkeys. 日本動物心理学会第 81 回大会, オンライン, 2021.10.30.
- 53) Miyamoto T, Hirata Y, Katoh A, Miura K, Ono S. Predictive control of smooth pursuit eye movements based on stimulus and behavioral histories. Neuroscience 2021 (SfN), Chicago(Online), 2021.11.8-11.
- 54) 三浦健一郎: 精神疾患横断的サリエンシー解析. 第 16 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2021.7.11.
- 55) 松本純弥, ENIGMA_CDJ_Cortical. 第 16 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2021.7.11.
- 56) 松本純弥: ENIGMA_CDJ_Cortical. 第 17 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2021.12.5.

(3) 研究報告会

- 1) 橋本亮太: 精神医療分野における治療の質を評価する QI とその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証. 令和 3 年度障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)分科会, オンライン, 2021.7.17-18.
- 2) 松本純弥, 福永雅喜, 三浦健一郎, 根本清貴, 岡田直大, 橋本直樹, 森田健太郎, 越山太輔, 大井一高, 高橋 努, 肥田道彦, 山森英長, 藤本 美智子, 安田由華, 長谷川尚美, 成田 尚, 横山仁史, 三嶋 亮, 河島孝彦, 小林祐子, 笹林大樹, 原田健一郎, 山本真江里, 平野羊嗣, 板橋貴史, 中瀧理仁, 橋本龍一郎, タ キンキン, 小池進介, 松原敏郎, 岡田 剛, 吉村玲児, 阿部 修, 鬼塚俊明, 渡邊嘉之, 松尾幸治, 山末英典, 岡本泰昌, 鈴木道雄, 尾崎紀夫, 笠井清登, 橋本亮太: 多施設共同研究による統合失調症・双極性障害・うつ病・自閉スペクトラム症の疾患横断的脳皮質構造画像解析. 令和 3 年度精神保健研究所研究報告会, オンライン, 2022.3.28.
- 3) 三浦健一郎, 岡崎康輔, 松本純弥, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 牧之段学, 橋本亮太: 統合失調症の客観的診断マーカーの探索と医療機器プログラムの開発, 令和 3 年度精神保健研究所研究報告会, オンライン, 2022.3.28.

(4) その他

- 1) 橋本亮太: 精神疾患の診断医療機器プログラムの開発研究. BIC 大型画像機器研究推進委員会第 54 回検討会, オンライン, 2021.4.27.

- 2) 橋本亮太：長谷川尚美，松本純弥，三浦健一郎，精神疾患の脳科学：トランスレーショナルアプローチ。東京農業大学農学研究科大学院講義，オンライン，2021.5.19.
- 3) 橋本亮太：精神疾患の克服のための病態解明研究とその障害支援のための社会実装研究。NCNP 精神保健研究所ランチョンセミナー，オンライン，2021.7.5.
- 4) 橋本亮太：精神医学の最前線：精神疾患の克服とその障害の支援のための研究とは。横浜市立大学大学院医学セミナー講義，オンライン，2021.12.6.
- 5) 橋本亮太：精神医学研究の最前線：精神疾患の克服とその障害の支援のための研究とは。NCNP 精神科セミナー，オンライン，2022.1.18.

C. 講演

- 1) 橋本亮太：精神疾患の克服のための病態解明研究とその障害支援のための社会実装研究。学術講演会，奈良県立医科大学，奈良，2021.8.4.
- 2) 橋本亮太，市橋香代：統合失調症薬物治療ガイドライン改訂 当事者・家族・支援者との共同作成についての報告。厚生労働省委託事業 Minds 第 23 回診療ガイドライン作成に関する意見交換会，オンライン，2021.11.13.
- 3) 橋本亮太，標準治療と臨床経験を踏まえた精神科医療とは。精神医療フォーラム from 弘前，オンライン，2021.12.23.

D. 学会活動

(1) 学会主催

(2) 学会役員

- 1) 橋本亮太：日本神経精神薬理学会 理事，評議員，広報委員会委員，統合失調症薬物治療ガイドラインタスクフォース委員，国際学術委員会委員，執行委員会委員，クロザピン TF 委員会委員長，トランスレーショナル・メディカルサイエンス (TMS) 委員会イノベーションサイエンス部会委員，精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証委員会委員長 (通称:EGUIDE 委員会)
- 2) 橋本亮太：日本精神神経学会 PCN 編集委員会委員，薬事委員会委員，精神医学研究推進委員会委員，PCN Reports 編集委員会
- 3) 橋本亮太：日本神経化学会 評議員，利益相反委員会委員，若手育成委員会委員，脳研究推進委員会委員，連合大会・多分野交流委員会委員
- 4) 橋本亮太：日本統合失調症学会 評議員
- 5) 橋本亮太：日本臨床精神神経薬理学会 評議員，精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証委員会委員長 (通称:EGUIDE 委員会)
- 6) 橋本亮太：日本うつ病学会 評議員，気分障害の治療ガイドライン検討委員会委員，精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証委員会委員長 (通称:EGUIDE 委員会)
- 7) 橋本亮太：日本生物学的精神医学会 理事，将来計画委員会委員，広報委員会委員，関連学会対応委員会副委員長，評議員
- 8) 橋本亮太：日本神経科学学会 臨床・関連学会連携委員会委員
- 9) 橋本亮太：国際神経精神薬理学会 理事，フェロウシップ表彰委員会委員，教育委員会委員，評議員
- 10) 三浦健一郎：電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究専門委員会 専門委員

(3) 座長

- 1) 橋本亮太：統合失調症の認知社会機能障害の簡易な測定法。第 15 回日本統合失調症学会，オンライン，2021.4.9.

- 2) 橋本亮太：ポスター発表「薬物治療」。第15回日本統合失調症学会，オンライン，2021.4.10.
- 3) 橋本亮太，渡邊 衡一郎：MD 自主企画シンポジウム「うつ病治療ガイドラインが明らかにした日本のうつ病の診療実態と課題」。第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]，横浜，2021.7.9.
- 4) 橋本亮太：シンポジウム：「統合失調症研究アップデート」：基礎研究から社会実装研究まで，第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会，京都，2021.7.14-16.
- 5) 橋本亮太，和氣弘明：基礎-臨床連携シンポジウム「当事者・ご家族の想いを適える精神医学研究」。第44回日本神経科学大会，神戸（オンライン），2021.7.28-31.
- 6) 橋本亮太：口演セッション「統合失調症等」，第44回日本神経科学大会，神戸（オンライン），2021.7.28-31.
- 7) 橋本亮太：シンポジウム：With 新型コロナ時代の薬物療法の注意点，第117回日本精神神経学会学術総会，京都，2021.9.19-21.

(4) 学会誌編集委員等

- 1) 橋本亮太：日本精神神経学会機関誌「Psychiatry and Clinical Neuroscience」編集委員会委員
- 2) 橋本亮太：日本精神神経学会機関誌「Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports」編集委員会委員
- 3) 橋本亮太：日本神経精神薬理学会機関誌「Neuropsychopharmacology Reports」「日本神経精神薬理学雑誌」編集委員会委員

E. 研修

(1) 研修企画

- 1) 橋本亮太：第15回日本統合失調症学会ワークショップ，統合失調症の認知社会機能障害の簡易な測定法，オンライン，2021.4.9-10.
- 2) 橋本亮太：第15回日本統合失調症学会ワークショップ，統合失調症薬物治療ガイドライン（EGUIDE プロジェクト）当事者，当事者家族，支援者，医療者による，EBMに基づく Shared Decision Making の達成にむけて一統合失調症薬物治療ガイドライン/ガイドを利用 SDM の実践一，オンライン，2021.4.9-10.
- 3) 橋本亮太：大阪精神科診療所協会，統合失調症薬物治療ガイドライン講習，オンライン，2021.6.19.
- 4) 橋本亮太：大阪精神科診療所協会，うつ病治療ガイドライン講習会，オンライン，2021.6.26.
- 5) 橋本亮太：日本うつ病学会ワークショップ，EGUIDE プロジェクト うつ病治療ガイドライン講習会，オンライン，2021.7.10.
- 6) 橋本亮太：第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会ワークショップ，統合失調症薬物治療ガイドライン講習，京都（オンライン），2021.7.16.
- 7) 橋本亮太：第5回日本精神薬学会総会・学術集会，薬剤師のための EGUIDE プロジェクトワークショップ，オンライン，2021.8.21.
- 8) 橋本亮太：日本精神神経科診療所協会日本精神神経科診療所協会 2021 年度定時総会 第27回学術研究会（通算48回）学術研究会ワークショップ，「日常診療に治療ガイドラインは役に立つのか？ー外来うつ病症例ディスカッションを通じてガイドラインの使い方を学ぶー」，オンライン，2021.9.12.
- 9) 橋本亮太：第117回精神神経学会学術総会ワークショップ，「一症例ディスカッションを通じてガイドラインの使い方を学ぶーEGUIDE プロジェクト」，京都（オンライン），2021.9.21.

- 10) 橋本亮太：第 31 回日本臨床精神神経薬理学会ワークショップ，「ガイドラインを超えたところにある治療技法」，オンライン，2021.10.8.
- 11) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト関東 NCNP 講習，統合失調症のガイドライン講習，オンライン，2021.10.3.
- 12) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト関東 NCNP 講習，うつ病のガイドライン講習，オンライン，2021.10.10.
- 13) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト関東東京女子医科大学講習，統合失調症のガイドライン講習，オンライン，2021.10.17.
- 14) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト近畿・北陸 大阪 1，統合失調症のガイドライン講習，オンライン，2021.10.23.
- 15) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト近畿・北陸 大阪 2，統合失調症のガイドライン講習，オンライン，2021.10.23.
- 16) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト近畿・北陸 大阪 1，うつ病のガイドライン講習，オンライン，2021.10.24.
- 17) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト近畿・北陸 大阪 2，うつ病のガイドライン講習，オンライン，2021.10.24.
- 18) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト北海道，東北，中部，東北大学，統合失調症のガイドライン講習，オンライン，2021.10.30.
- 19) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト北海道，東北，中部，東北大学，うつ病のガイドライン講習，オンライン，2021.10.31.
- 20) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト中四国・九州・沖縄，福岡大学，統合失調症のガイドライン講習，オンライン，2021.11.6.
- 21) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト中四国・九州・沖縄，福岡大学，うつ病のガイドライン講習，オンライン，2021.11.7.
- 22) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクト関東東京女子医科大学講習，うつ病のガイドライン講習，オンライン，2021.11.21.
- 23) 橋本亮太：大阪精神科診療所協会，統合失調症薬物治療ガイドライン講習（ディスカッションパート），オンライン，2022.1.22.
- 24) 橋本亮太：大阪精神科診療所協会，うつ病治療ガイドライン講習会（ディスカッションパート），オンライン，2022.2.26.
- 25) 橋本亮太：16 回日本統合失調症学会，統合失調症の認知機能障害ワークショップ，オンライン，2022.3.21.

(2) 研修会講師

- 1) 橋本亮太：統合失調症の認知社会機能障害の簡易な測定法．第 15 回日本統合失調症学会ワークショップ，オンライン，2021.4.9.
- 2) 橋本亮太：統合失調症薬物治療ガイドライン（EGUIDE プロジェクト）当事者，当事者家族，支援者，医療者による，EBM に基づく Shared Decision Making の達成にむけてー統合失調症薬物治療ガイドライン/ガイドを利用した SDM の実践ー．第 15 回日本統合失調症学会ワークショップ，オンライン，2021.4.10.
- 3) 橋本亮太：再発・再燃時．統合失調症薬物治療ガイドライン講習（大阪精神科診療所協会主催），オンライン，2021.6.19.
- 4) 橋本亮太：精神病性．うつ病治療ガイドライン講習会（大阪精神科診療所協会主催），オンライン，2021.6.26.
- 5) 橋本亮太：治療抵抗性．統合失調症薬物治療ガイドライン講習（第 43 回日本生物学的精神医学会・第 51 回日本神経精神薬理学会 合同年会），オンライン，2021.7.16.

- 6) 橋本亮太: 薬剤師のための EGUIDE プロジェクト. 第 5 回日本精神薬学会総会・学術集会, オンライン, 2021.8.21.
- 7) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習, 統合失調症のガイドライン講習, オンライン, 2021.10.3.
- 8) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習, うつ病のガイドライン講習, オンライン, 2021.10.10,
- 9) 橋本亮太: 治療抵抗性. EGUIDE プロジェクト近畿・北陸 大阪 2, 統合失調症のガイドライン講習, オンライン, 2021.10.23.
- 10) 橋本亮太: 児童思春期. EGUIDE プロジェクト近畿・北陸 大阪 2, うつ病のガイドライン講習, オンライン, 2021.10.24.
- 11) 橋本亮太: ファシリテーター, うつ病治療ガイドライン講習会(大阪精神科診療所協会主催), オンライン, 2022.2.26.

F. その他

【受賞】

- 1) 橋本亮太: 第 117 回日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞, 統合失調症とうつ病の治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果, 2021.9.
- 2) 降旗隆二, 橋本亮太他: 第 117 回日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞, 睡眠薬処方の実態と多剤処方に関連要因: 統合失調症とうつ病患者の処方データの分析, 2021.9.
- 3) 松本純弥: 日本神経精神薬理学会 JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2021, Cortical structural mega-analysis across four major psychiatric disorders in 5432 individuals, 2021.12.
- 4) 松本純弥: 日本統合失調症学会 2021 年度国際学会若手発表奨励賞, 2022.3.
- 5) 松本純弥: 第 16 回日本統合失調症学会 一般演題賞 (優秀賞), 多施設共同研究による統合失調症と双極性障害の脳皮質構造画像解析. 2022.3.
- 6) 長谷川尚美: 第 5 回日本精神薬学会総会・学術集会 日本精神薬学賞, 統合失調症とうつ病の薬物治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果 2016~2019 年の処方調査から, 2021.9.
- 7) 長谷川尚美: AsCNP2021 Best Poster Award, The effect of EGUIDE project on medication for schizophrenia and major depressive disorder: from the 2016-2019 prescribing survey. 2021.10.
- 8) 長谷川尚美: 日本統合失調症学会 2021 年度国際学会若手発表奨励賞, 2022.3.
- 9) 市橋香代: 日本神経精神薬理学会 NPPR Article Award 2021, 2021.7. 受賞論文: Ichihashi K, Hori H, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamamoto T, Tsuboi T, Iwamoto K, Kishimoto T, Horai T, Yamada H, Sugiyama N, Nakamura T, Tsujino N, Nemoto K, Oishi S, Usami M, Katsumoto E, Yamamori H, Tomita H, Suwa T, Furihata R, Inagaki T, Fujita J, Onitsuka T, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Matsui Y, Takaesu Y, Hashimoto N, Iga J, Ogasawara K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R. Prescription patterns in patients with schizophrenia in Japan: First-quality indicator data from the survey of "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project. Neuropsychopharmacol Rep, 40(3):281-286, 2020.

【その他】

- 1) 橋本亮太: 参考人として出席し意見を陳述. 厚生労働省令和 3 年度第 8 回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部案船対策調査会, 2021.5.24.
- 2) 橋本亮太: 研究会主宰. 第 16 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2021.7.11.
- 3) 橋本亮太: コーディネーター. シンポジウム: With 新型コロナ時代の薬物療法の注意点, 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021.9.19-21.

- 4) 橋本亮太：コーディネーター．科学的な根拠に基づく添付文書改訂のための研究とは，シンポジウム：臨床現場・学会・厚生労働省・PMDA の連携による当事者のためのクロザピン添付文書改訂への道，第 117 回日本精神神経学会学術総会，京都，2021.9.19-21.
- 5) 橋本亮太：総合司会．統合失調症のガイドライン講習，EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習，オンライン，2021.10.3.
- 6) 橋本亮太：総合司会．うつ病のガイドライン講習，EGUIDE プロジェクト関東地区 NCNP 講習，オンライン，2021.10.10.
- 7) 橋本亮太：プレスリリース．治療抵抗性統合失調症の診断により 治療抵抗性統合失調症薬クロザピンの処方率が向上～精神科医への教育がよりよい医療の実践に大きく前進～(NCNP, 獨協医科大医学共同発表)，掲載誌 Neuropsychopharmacology Reports, 2021.11.26.
- 8) 橋本亮太：研究会主宰．第 17 回 COCORO 合同会議，オンライン，2021.12.5.